

2011 年度活断層学会論文賞

授賞者： 鈴木康弘・杉戸信彦・隈元 崇・澤 祥・渡辺満久・松多信尚・廣内大助・
谷口 薫・田力正好・石黒聡士・佐藤善輝

対象論文： 平均変位速度分布に基づく糸魚川－静岡構造線断層帯北部の地震発生予測,
活断層研究, 33, 1-14.

授賞理由：

本論文は、近い将来の活動が懸念されている糸魚川－静岡構造線断層帯北部（長さ60km）全域において、詳細な地形面区分や変位地形の検討を行い、活断層線の詳しい位置を明らかにした。こうして認定された活断層沿いにおいて、写真測量手法を導入して人工改変前の地形を復元したうえで、主に上下（鉛直）方向の断層変位量を多くの地点で算出した。とくに低位段丘面群（L1～L3 面）に注目して、それら各地形面の形成年代、平均変位速度の分布、1回の地震時の鉛直変位量分布、さらにネットスリップ量分布などの推定に基づき、モーメントマグニチュードを求めている。このように著者らの作業で取得した膨大なデータをもとに評価された地震規模予測や変位パターン予測は説得力がある。このグループによる同断層帯沿いの変動地形に関する詳しい成果はすでに一連の論文で公表され、その多くは活断層研究（澤ほか，2006；松多ほか，2006 など）に掲載されてきたが、これらの総まとめ的な論文として高く評価できる。よって、2011 年度日本活断層学会の論文賞を授与する。